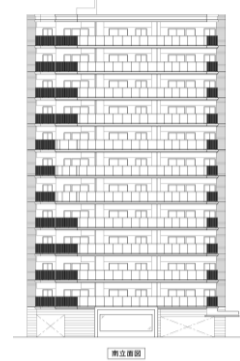


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)HC西春計画	階数	地下0階地上12階
建設地	愛知県北名古屋市鹿田海道西3502番1	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	132人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年6月9日
敷地面積	773 m <sup>2</sup>	作成者	太田ひかり
建築面積	294 m <sup>2</sup>	確認日	2023年6月9日
延床面積	2,567 m <sup>2</sup>	確認者	太田ひかり



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (138 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: 51% (70 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

③上記+②以外の: 51% (70 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

④上記+: 51% (70 kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです。

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Qのスコア = 3.1

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.6

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.4

### LR 環境負荷低減性

**LRのスコア = 3.4**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">4.9</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">55.8 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	55.8 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	55.8 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">2.7</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積(建築面積及び附属物面積)}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体	
配慮項目	独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分			住居・宿泊部分		全体		
				評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点		重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>3.1</b>	
<b>Q1 室内環境</b>							0.40			<b>3.6</b>	
<b>1 音環境</b>				0.1	3.0	0.15	3.3	3.3	1.00	3.2	
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.50		3.0	0.50		
1.2 遮音				0.5	3.0	0.50		3.6	0.50		
1 開口部遮音性能					3.0	1.00		5.0	0.30		
2 界壁遮音性能								3.0	0.30		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)								3.0	0.20		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)								3.0	0.20		
1.3 吸音											
<b>2 温熱環境</b>				0.3	2.0	0.35	4.0	4.0	1.00	3.7	
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	4.0	4.0	1.00		
1 室温				3.0	3.0	0.63		-	-		
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38		4.0	1.00		
3 ゾーン別制御性				3.0							
2.2 湿度制御				3.0	1.0	0.20					
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30					
<b>3 光・視環境</b>				0.2	2.2	0.25	4.0	4.0	1.00	3.8	
3.1 昼光利用				0.3	4.2	0.30	4.0	4.0	0.50		
1 昼光率				3.0	5.0	0.60		5.0	0.50		
2 方位別開口								3.0	0.30		
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40		3.0	0.20		
3.2 グレア対策				0.3	2.0	0.30	4.0	4.0	0.50		
1 昼光制御				5.0	2.0	1.00		4.0	1.00		
3.3 照度				3.0	1.0	0.15					
3.4 照明制御				3.0	1.0	0.25					
<b>4 空気環境</b>				0.2	3.6	0.25	3.6	3.6	1.00	3.6	
4.1 発生源対策				0.6	4.0	0.60	4.0	4.0	0.63		
1 化学汚染物質				3.0	4.0	1.00		4.0	1.00		
4.2 換気				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38		
1 換気量				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
2 自然換気性能				3.0				3.0	0.33		
3 取り入れ外気への配慮				3.0	3.0	0.50		3.0	0.33		
4.3 運用管理											
1 CO <sub>2</sub> の監視				3.0							
2 喫煙の制御				3.0							
<b>Q2 サービス性能</b>						0.30				<b>3.0</b>	
<b>1 機能性</b>				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60		
1 広さ・収納性				3.0							
2 高度情報通信設備対応				3.0				3.0	1.00		
3 バリアフリー計画				3.0	3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40		
1 広さ感・景観 (天井高)				3.0				3.0	0.50		
2 リフレッシュスペース				3.0							
3 内装計画				3.0	3.0	1.00		3.0	0.50		
1.3 維持管理				0.3	3.0	0.30					
1 維持管理に配慮した設計				3.0	3.0	0.50					
2 維持管理用機能の確保					3.0	0.50					
<b>2 耐用性・信頼性</b>				0.3	3.0	0.31				3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	3.0	0.48					
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	3.0	0.80					
2 免震・制震・制振性能				3.0	3.0	0.20					
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.0	0.33					
1 躯体材料の耐用年数					5.0	0.23					
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.23					
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					3.0	0.09					
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08					
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					3.0	0.15					
6 主要設備機器の更新必要間隔					2.0	0.23					
2.4 信頼性				0.1	3.0	0.19					
1 空調・換気設備				3.0	3.0	0.20					
2 給排水・衛生設備				3.0	3.0	0.20					
3 電気設備				3.0	3.0	0.20					
4 機械・配管支持方法				3.0	3.0	0.20					
5 通信・情報設備				3.0	3.0	0.20					
<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.0	0.29	3.1	3.1	1.00	3.0	
3.1 空間のゆとり							3.2	3.2	0.50		
1 階高のゆとり								4.0	0.60		
2 空間の形状・自由さ				3.0				2.0	0.40		
3.2 荷重のゆとり				3.0				3.0	0.50		
3.3 設備の更新性				1.0	3.0	1.00					
1 空調配管の更新性					3.0	0.17					
2 給排水管の更新性				3.0	3.0	0.17					
3 電気配線の更新性				3.0	3.0	0.11					
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.11					
5 設備機器の更新性				3.0	3.0	0.22					
6 バックアップスペースの確保				3.0	3.0	0.22					
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						0.30				<b>2.4</b>	
1 生物環境の保全と創出					1.0	0.30				1.0	
2 まちなみ・景観への配慮					3.0	0.40				3.0	
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	3.0	0.30				3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					2.0	0.50					
3.2 敷地内温熱環境の向上					4.0	0.50					



**重点項目スコアシート**  
 (仮称)HC西春計画

実施設計段階

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.9</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.9	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09
			外構緑化:55.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)HC西春計画

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高を2.91m以上とし空間にゆとりを持たせた。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し住戸分の駐車場を確保した。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。